
2. 「鉾田南中学校区統合小学校施設整備検討委員会」協議録

(1) 鉾田南中学校区統合小学校施設整備検討委員会の記録

(2) 鉾田南中学校区統合小学校施設整備検討委員会 委員会名簿

業務名：銚田南中学校区統合小学校基本計画策定業務

■ 打合せ記録（第1回 銚田南中学校区統合小学校施設整備検討委員会）

□ その他（ ）

日時：2015年8月24日19時00分～
場所：銚田市福祉事務所2階会議室

承認
所長

確認
各担当者
P L ・ P S

建築主：銚田市長 鬼沢 保平 様

出席者
建築主(担当者)：銚田市教育委員会
鬼澤教育長、根本教育部長、大場課長、長峰室長、
田中室長補佐、大川係長、菊地係長、薄井主事
検討委員：委員名簿参照
三上建築事務所：益子、大井、新堀
日本大学工学部：浦部准教授

作成日 2015年8月25日
受付
作成者 新堀 琢己

適切性の確認者：

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
I. 協議事項					
1. 開会					
2. 委嘱状交付					
(1) 鬼澤教育長より、委嘱状が交付された。					
3. 教育長あいさつ					
(1) 現在、銚田南中学校区統合小学校（以下、本校）の基本計画を平成31年4月の開校に向けて順調に進めている。					
(2) 銚田北小学校は小中学校が同敷地内にあり、小中連携が図りやすい状況である。本校は別々の敷地になるので、できるだけ小中の連携ができるように計画していく。					
(3) 本校は7校が統合するので、銚田北小学校の建設より課題が多くなることが予想される。					
(4) 現在、建設用地が決定して、これから新しい学校をどのようにつくっていくか検討を重ねていくので、よりよい環境づくりを目指してご協力いただきたい。					
(5) これからの社会はグローバル化し、世界に目を向ける時代になる。銚田市は農業が中心のまちであるが、子どもたちが今までと発想を変えて生きていけるように教育していかなければならない。					
(6) 国の改革は進んでおり、小学校での英語教育の導入が進んでいる。					
(7) 新たな発想で、基本を外さない学校教育を目指す。					

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
(8) 環境が人をつくる。環境は、物的、人的、心理的、社会的など様々ある。よりよい環境づくりとして、まず施設づくり、またソフト面もしっかり見据えて学校づくりをしていく。					
(9) 未来を拓く子どもたちの育成のために、ご協力いただければありがたく思う。					
4. 委員長、副委員長選出					
(1) 諏訪小学校の大山校長を委員長に推薦する。（銚田小・中村校長） →異議なし。（一同） →委員長を諏訪小学校の大山校長に決定する。（教育委員会・鬼澤教育長）					
(2) 7校の中で最も規模が大きい小学校ということで、銚田小学校のPTA会長山口氏を副委員長に推薦する。（大山委員長） →異議なし。（一同） →副委員長を銚田小PTA会長山口氏に決定する。（大山委員長）					
5. 委員長・副委員長あいさつ					
(1) 大役であるが、スムーズに会が進行するように、ご協力いただきたい。（大山委員長）					
(2) 出来る限り頑張っていく。（山口副委員長）					
6. 協議事項					
1) 先進事例の紹介 「学校建築の現在を考える」 （日本大学工学部 准教授 浦部智義）					
a. 自己紹介					
(1) 普段はラフな格好で学生と近い距離で接するようにしている。					
(2) 専門は劇場ホールである。					
(3) 東京電機大学 船越徹研究室出身である。					
b. 学校建築の流れ					
(1) 西戸山小学校（1950） ・鉄筋コンクリート造のモデルプランが日本中に広がる。					
(2) 宮前小学校（1955） ・両面採光、ワークスペース設置 ・低学年、高学年棟の分離 ・低学年専用の校庭確保					
(3) 施設デザインの新たな動き（1960～）					

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
・量の確保から質の充実へ ・標準設計から多様なデザインへ ・研究成果に基づく計画・デザインへ ・城南小学校（1965）クラスター型、屋外空間との対応 ・三沢市立第5中学校（1965）教科教室型、イギリス型 (4) 加藤学園初等学校（1972） ・日本初のオープンプランスクール ・私立学校—アメリカのオープンプランスクールの影響 (5) 緒川小学校（1978） ・日本初の公立オープンプランスクールの一つ ・日本型のオープンプラン・教育カリキュラムの開発 ・低学年と高学年棟分離、各棟ごとに共有オープンスペース (6) 杉並区立第十小学校（1984） ・地域空間と学校空間の関係の在り方に1つのモデルを示した。 ・公園と一体化したオープンな学校 ・地域の防災拠点 ・体育館とプールを上下に一体化した計画 (7) 宮代町立笠原小学校（1982） ・「多様な空間が集まる小宇宙」 ・子供たちにとって多様な居場所をつくる ・普通教室を大きくとり、様々な仕掛けを設けている c. 近年の小学校建築 (1) 打瀬小学校（1995） ・門も塀もない、街と一体化したオープンスクール ・子供のアクティビティを誘発する空間 ・オープンなクラスルーム ・オープンスペースと一体化した特別教室 ・壁のない特別教室はアイランド状の準備室で仕切る ・外部空間へのアクセシビリティが高い ・子供たちの活動が室内に限定されないことを目指した (2) 宇土小学校（2011） ・オープンなクラスルーム ・L壁で囲われた教室空間 ・切れ目のない教室とオープンスペース ・外部に開かれた小学校、教室からすぐ外に出ら					

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
れる (3) おおたかの森小・中学校（2015） ・地域に開かれた学校 ・複雑化したL壁空間 ・小中別々の2層の体育館 (4) 博多小学校（2001） ・昇降口を別々に設けて、子どもたちが外に出やすくしている ・18クラスから25クラスまで対応するプランニング ・教室とオープンスペースには隔てる壁がない ・教室とワークスペースの関係性を重視 ・クラスルームを南北に配置し、学年単位でのまとまり感の構築を意識している ・アルコーブとワークスペースと予備教室を設置 ・表現の舞台 →アクティブラーニングの場 ・それぞれの棟を結ぶデッキ空間 (5) 飛鳥学園（2010） ・小中一貫校、4・3・2制の実施 ・コンパクトな特別教室の使い方（アトリエは図工・技術・美術等どんな作業にも使える空間） (6) 保原小学校（2006） ・学校を地域に開放し、「学校と地域が融合する」 ・スクールコミュニティ構想 ・地域に開放した講堂 ・階段室を拡張した階段状シアター d. 木質空間の小学校 (1) 弘道小学校（1991） ・鉄骨キール・トラスに集成材の小梁が掛けられた体育館 ・低学年棟、高学年棟の木架構 (2) 九十九小学校（2006） ・木造で試みたオープンスペース ・普通教室を小さくした計画 (3) いには野小学校（2000） (4) 平良小学校（2002） ・人々の出会いの場、交流の場 ・学校全体を認識できる空間、コリドール ・大断面集成材の活用 e. 小中一貫校の事例 (1) 鹿北小学校（2014）					

打合せ記録・その他シート					
		F7-3-01	17	7.3.2	2015.5.19
協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
・木造とRC造のハイブリッド ・体育館、プールは町の施設を利用 (2) 芝園小学校・中学校 (2008) ・学校全体を貫くアトリウム空間 (3) 高松第一小学校・高松第一中学校 (2010) ・全学年・教員の交流を育む仕掛け ・中庭に面したステッププラザ f. オープンプランスクール出身者の意見 (1) 白石市立第二小学校 (1996) ・廊下が広いのでよく遊んだ。 ・教室の使い方は先生によって違い、オープンに授業している先生もいたが、そうでない先生もいた。 ・オープンプランスクールはフレキシブルにしておけば、オープンでも対応できるのではないか。(浦部氏の意見) g. 廃校小学校のハードの活用 (1) 氷見庁舎 (2014) ・有磯高校から庁舎へ ・あまり手をかけずに活用する h. 被災地小学校復興プロポーザル (1) 鶴住居 ・日常的な避難施設としての学校 ・原風景を保存した安心のシンボルとしての学校 ・地域に開かれた学校 ・災害に強く、自然エネルギーを利用した学校 ・2足制 ・間仕切り壁は解体移築可能な乾式工法 ・家具による簡易な仕切りで生徒、教師の居場所をつくる →用途変更にも柔軟に対応 ・オープンスペースは学年共通に使うことができる部屋のような通りの空間 ・教師のコーナーを設置 2) 質疑応答 (1) 先進事例ではクラスルームが独立しているような学校があるが、地域の方が戸惑うのではないか。(教育委員会・鬼澤教育長) →計画に骨格空間があれば、自分の居場所が分かり、利用者は認識しやすいのではないか。(浦部准教授) (2) 新しい学校の利用方法として、設計者と利用者で共通認識していくことが課題と考える。また、時					
Mikami Architects			三上建築事務所		

打合せ記録・その他シート					
		F7-3-01	17	7.3.2	2015.5.19
協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
間の経過に伴って共通認識をすることは難しいと思うが、どう考えているか。(教育委員会・鬼澤教育長) →普通教室、特別教室をフレキシブルに利用できるように計画することで、時間の経過による利用方法の変化に耐えられるのではないか。また、それが教室の稼働率を上げることになる。(浦部准教授) (3) 一般的に今の学校の耐用年数はどのくらいになるか。(大竹小・柏葉校長) →現在、学校施設の耐用年数の目安は60年程度である。これからは、100年使い続けられる学校である必要がある。そのために、しっかり手入れをしていくことが大切である。(三上建築事務所・益子) →建設当初は永久校舎と呼ばれた建物が、30年程度で改修されている。木造とRC造ではどちらが長く使い続けられるのか。(大竹小・柏葉校長) →どちらも、建設後の手入れ次第で長く使続けられる可能性がある。(三上建築事務所・益子) (4) 現在、新しい学校の計画をどのようなイメージで進めているか。(大山委員長) →全く白紙の状態である。検討委員会で議論して頂き、それを取りまとめながら進めていく。(三上建築事務所・益子) 3) 基本方針 所長の益子が銚田南中学校区統合小学校の学校づくりの基本方針について説明を行った。以下に、協議内容を示す。 (1) 常磐小学校は町のコミュニティーセンターが学校内に複合されている。新しい小学校では、図書館や公民館など学校以外の公共施設が一緒になり、地域の人たちがそこに集えるような場があると思う。(野友小・長谷川校長) (2) 敷地面積の5haはどのくらいの面積になるか。(新宮小・高橋氏) →銚田北小学校・中学校の敷地が約5haである。(教育委員会・長峰氏) (3) 高低差のある地形を活かして、建物をスキップフロアにするのはどうか。(串挽小・岡野氏) →そのような計画にすることも可能だが、敷地の高低差を均すと約3.5haほどの平場が確保できると見込んでいる。その際には、スキップフロアの計画にすることはないと考える。(三上建築事					
Mikami Architects			三上建築事務所		

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
務所・益子)					
(4) 前面道路との高低差が約 15m 程度あるので学校の敷地内にどのように登って行くかが課題である。(三上建築事務所・益子)					
(5) 先程の先進事例の学校でもあるように、普通教室は必ずしも南に向かなくてもよい。教室が南面しない場合は直射日光を遮ることができて、教室の環境としてはよくなるといえる。(三上建築事務所・益子)					
(6) 何階建ての校舎になるか。(串挽小・岡野氏) →現在検討中であるが、2 階建てか 3 階建てが妥当だと考えている。平屋建ては建築面積が大きくなり、校庭が小さくなってしまうので難しい。(三上建築事務所・益子)					
(7) 校庭は狭くならないか。(串挽小・田神校長) →茨城県の一般的な小学校は、200m トラックが確保できる程度の広さである。本計画もそのぐらいの広さは確保できる。(三上建築事務所・益子)					
(8) 大断面集成材を利用した空間があるとよい。(串挽小・岡野氏)					
(9) 鉾田北小学校の校舎は普通の校舎である。(串挽小・岡野氏) →鉾田北小学校もこのような議論を経た結果である。(三上建築事務所・益子)					
(10) 駐車場をたくさん設ける必要があるのではないか。(新宮小・高橋氏) →確かに駐車場をたくさん確保することは重要であるが、それだけ子どもたちが活動するスペースが減ることにもなる。子どもたちの場所を優先させ、小さい駐車場をどう活用するかを大人が考えることが大切だと考える。(三上建築事務所・益子)					
(11) 特別支援教室は現在 4 クラスぐらいあるが、新しい学校ではどれくらい必要になるか。(串挽小・田神校長) →本校が開校する平成 31 年度に、何クラス必要になるかは、今後検討していく。(教育委員会・					

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
長峰氏)					
4) その他					
(1) 本日の協議の内容を一度持ち帰っていただき、認識を再度確認していただきたい。その上で、次回の検討委員会までに事務局に意見をいただければと思う。(教育委員会・長峰氏)					
(2) 今後、先生方や地域の方々の想いをすり合わせて、いい学校をつくるために、提案ができるとうい。(新宮小・小澤校長) →今回は 7 校の統合ということで、一校一校を回って先生方、地域の方々のヒアリングをしていくことは難しい。したがって、各学校、地域で議論していただき、まとめた意見を基に、この検討委員会で協議することが重要である。(三上建築事務所・益子)					
(3) 今後、意見がなるべく出しやすくなるような仕組みを考えていく。(教育委員会・長峰氏)					
7. 閉会					
(1) 次回の予定 10 月の初旬に予定したいと考えている。日程に関する意見も頂きたい。(教育委員会・長峰氏)					
以上					
					

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
 打合せの状況					

業務名：鉾田南中学校区統合小学校基本計画策定業務

■ 打合せ記録（第2回 鉾田南中学校区統合小学校施設整備検討委員会）

□ その他（ ）

日時：2015年10月30日19：00～21：00

場所：鉾田市本庁舎3階第三会議室

建築主：鉾田市長 鬼沢 保平 様

出席者
建築主(担当者):鉾田市教育委員会
根本教育部長、大場課長、長峰室長、田中室長補佐、大川係長、菊地係長、薄井主事
検討委員：委員名簿参照
三上建築事務所:益子、大井、新堀
日本大学工学部：浦部准教授

作成日 2015年10月31日

受付

作成者 新堀 琢己

承認

所長

確認

各担当者

PL・PS

/

/

/

適切性の確認者：

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
I. 協議事項					
1. 開会					
2. 委員長あいさつ					
3. 協議事項					
(1)業務スケジュール					
所長の益子が業務スケジュールについて説明した。					
(2)アンケートの整理					
所長の益子が前回検討委員会後に配布したアンケートの回答を読み上げた。以下に協議内容を記す。					
1) 検討委員会は第3回で終了するのか。(野友小・長谷川校長)					
→基本計画としては終了するが、基本設計、実施設計を行うにあたり、検討の場を設けていく。(教育委員会・長峰室長)					
2) 学童クラブは整備されるか。(大竹小・柏葉校長)					
→鉾田市子ども家庭課で学校の敷地内にあるとよいという話が出ている。現在は保育園等の民間業者が行っており、そのような業者と調整をしながら、設置の可否を決定する。(教育委員会・長峰室長)					
3) 鉾田小は12学級で理科室が1つだが、できれば2教室ほしい状況である。(鉾田小・中村校長)					
→1学年4クラスだと重複率1.7になり、ほぼ常に2クラスが同時に理科の授業を行っていることになるので、2教室あった方がよい。しかし、建設コストや児童数減少などを考慮して検討する必要がある。(三上建築事務所・益子)					
4) デザイン性を重視して死角となる場所が多くな					

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
るより、機能的な校舎にしてほしい。(新宮小・小澤校長)					
5) 準備室をはじめ、収納・スペースを十分確保してほしい。また、1年生でも出し入れしやすい収納がよい。(野友小・長谷川校長)					
→設計段階で備品調査などを行い必要な収納量を検討していく。(三上建築事務所・益子)					
6) 和式トイレよりも洋式トイレを多く設置してほしい。(野友小・長谷川校長)					
→現在では衛生面上、乾式の洋式トイレとすることが一般的である。(三上建築事務所・益子)					
7) 駐車場をできるだけ多く整備してほしい。(鉾田小・中村校長)					
→行事の際に必要な台数を確保すると、建設コストがかかる上、通常時は使用されない無駄なスペースになる。外周道路を利用するなどの対応を検討するとともに、運営面でも車の台数を減らす対策を検討してほしい。(三上建築事務所・益子)					
→限られた予算の中なので、校舎とグラウンドを優先して整備し、出来る範囲で駐車場を整備するべきだろう。(串挽小・田神校長)					
→行事の時はまわりの道路に駐車するか、近くの新宮小のグラウンドを駐車場として、送迎バスを利用してピストン輸送するなどの対応策が考えられる。(野友小・長谷川校長)					
(3)学校づくりの基本方針					
所長の益子が学校づくりの基本方針について、以下の項目の説明を行った。					
1) 鉾田南中学校区統合小学校の基本計画方針(案)					
2) 施設全体の構成					
3) 普通教室まわりの構成					
(4)計画の具体化					
所長の益子が計画の具体化について説明を行った。以下に協議内容を記す。					
1) 校舎の西側はどうなっているか。(野友小・長谷川校長)					
→法面の坂道となっている。残地森林の規制により敷地内の山林の25%を保存することになる。(教育委員会・長峰室長)					
→現状25%の山林は、利用しづらい法面で確保しきれるので、土地利用上有効である。(三上建					

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
築事務所・益子) 2) 進入路は県道からの一ヶ所なのか。(串挽小・岡野氏) →南側に市道があるが、現実には使用すると問題がある。北側にもう一つ進入路をつくることは難しい。(教育委員会・長峰室長) 3) 避難場所としての備えはあるか。(新宮小・小澤校長) →今後、防災当局と調整を行う。(教育委員会・長峰室長) 4) 特別支援学級の数は何学級想定しているか。今後特別支援学級の児童数が増加することを考慮して、転用可能な多目的室を備えた方が良くはないか。(当間小・高崎校長) →特別支援学級は6クラス+プレイルームを計画している。規模は基本計画で決めるので、ご意見をいただきたい。(三上建築事務所・益子) 5) 図面ができてからでないか意見が出しづらいが、その段階では変更がきかない状況になってしまう。(当間小・高崎校長) →基本設計、実施設計段階でも検討委員会を行って意見を聞いていく。(教育委員会・長峰室長) →基本計画での計画内容は、全体の規模をどのくらいに設定するか、またどのような室が何部屋必要なのかなどをとらえるものである。(三上建築事務所・益子) 6) 教室の配置は、対面式と並列式でそれぞれメリット、デメリットがある。また、折衷案も考えられる。(三上建築事務所・益子) →対面式の教室配置は我々は経験がないので判断しづらい。先進事例を視察する機会がほしい。(鉾田小・中村校長)					
4. 閉会 (1) 次回の予定 11月16日(月)19:00～ 福祉事務所2階会議室					
					以上

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
  					

検討委員会の状況

業務名：銚田南中学校区統合小学校基本計画策定業務

■ 打合せ記録（第3回 銚田南中学校区統合小学校 施設整備検討委員会） □ その他（ ）	作成日	2015年11月16日		
	受付			
	作成者	新堀 琢己		
日時：2015年11月16日 19:00～21:00	承認	確認		
場所：銚田市本庁舎2階会議室	所長	各担当者	P L ・ P S	
建築主：銚田市長 鬼沢 保平 様	/	/	/	
出席者 建築主(担当者):銚田市教育委員会 根本教育部長、大場課長、長峰室長、田中室長補佐、大川係長、菊地係長、薄井主事 検討委員：委員名簿参照 三上建築事務所：益子、大井、新堀 日本大学工学部：浦部准教授				

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
1. 協議事項 1. 開会 2. 委員長あいさつ 3. 協議事項 (1)業務スケジュール 所長の益子が業務スケジュールについて説明した。 (2)アンケートの整理 所長の益子が前回までに出的意見のまとめを読み上げた。以下に協議内容を記す。 1) トイレは洋式がよいという意見があったが、どう考えているか。(委員長) →銚田北小でも洋式を主としているので、今回計画でもそのように考えている。(教育委員会・長峰室長) 2) 防災の備蓄については、市では一元的な管理を考えているので、学校独自の整備は考えていません。(長峰室長) 3) 進入口が正門だけではなく通用口があった方がよいのではないか。(野友小・長谷川校長) 4) 公衆電話があるとよい。(大竹小・飯塚氏) →現在大竹小にはあるか。(教育委員会・長峰室長) →大竹小は外部にある。(大竹小・飯塚氏) →NTT との調整になるので、容易ではないが努力する。(教育委員会・長峰室長) 5) 今回の検討委員会で先進事例の視察ができれば					

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
よかった。今後、基本設計、実施設計でそのような段階で検討させていただきたいと考えています。(教育委員会・長峰室長) 6) 児童クラブの市の所管は、福祉部になります。過去に、放課の受け皿に民間保育所へお願いした経緯がある。 教育委員会で、私立保育園へヒアリングを行ったところ、お客さんが少なくなってしまうとの意見があった。(教育委員会・長峰室長) (3) 検討案について 所長の益子が検討案について説明を行った。以下に協議内容を記す。 1) 正門から昇降口まで何メートルあるか。(新宮小・小澤校長) →約250m程度になる。(三上建築事務所・益子) →アプローチが長くないか。(新宮小・小澤校長) →階段を設けずにスロープだけだとアプローチが長くなることはやむを得ない。(三上建築事務所・益子) 2) 西側の斜面にスロープを設けることはできないか。(串挽小・岡野氏) →スロープを設けるのは厳しいと考える。(三上建築事務所・益子) →近道をしようとする子どもがでると予想されるので、最初から近道を整備しておくべきではないか。(串挽小・岡野氏) →25%の緑地を残したまま遊歩道のようなものを整備することは可能である。(三上建築事務所・益子) 3) 野友小学校のアプローチは急勾配だが問題ないように思う。(野友小・長谷川校長) 4) 調整池とプールの間に階段を設けることはできないか。(野友小・堀田氏) →階段なら可能であるが、擁壁ができてしまうので検討が必要である。(三上建築事務所・益子) →今後の検討課題としてもらいたい。(委員長) →安全面を考慮して検討していく。(三上建築事務所・益子) 5) 調整池の深さは何メートルか。(野友小・長谷川校長)					

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
→3～4m 程度になると想定している。(三上建築事務所・益子)					
6) 日当たりが良いのはどちらの案か。(新宮小・高橋氏) →E-2 案はクラスルームに直射日光が入るがE-1 案は入らない。したがって、E-1 案の場合は熱負荷が低減され比較的省エネルギーになる。(三上建築事務所・益子)					
7) E-1 案の方が、吹抜けなどが多く、スペースとしてよいと考える。(串巻小・岡野氏) →E-1 案は体育館がクラスルームから近いことも利点である。(三上建築事務所・益子)					
8) E-2 案は落ち葉の処理が大変なのではないか。(野友小・長谷川校長) →どちらも風の影響は避けられない。E-2 案のメリットは昇降口の前に大屋根が付いた広場を設けられる点である。(三上建築事務所・益子)					
9) 建設コストはどちらの案もほぼ同じと考えている。したがって、どちらが基本方針の実現に相応しいかを検討していただきたい。(三上建築事務所・益子)					
4. 講評 (浦部准教授)					
1) 本検討委員会はよい流れで進んでいると思う。意見も活発に出て、よい検討案が2案上がっている。					
2) 学校の骨格となる空間と体育館のあり方が学校を特徴づけると考える。					
3) 地域にとって良い学校ができる素地ができたと考ええる。					
4) クラスルームや学年のグルーピングが大切である。					
5) アプローチの長さは、通学しながら子どもの体力を鍛えられると考えることもできる。					
5. 閉会					
以上					

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
					
検討委員会の状況					

銚田南中学校区統合小学校施設整備検討委員会委員名簿

(順不同)

No.	職 名	氏 名	備 考
1	銚田小学校校長	中村 裕幸	
2	銚田小学校PTA会長	山口 功	
3	諏訪小学校校長	大山 祐司	
4	諏訪小学校PTA会長	佐々木 絵美	
5	大竹小学校校長	柏葉 正夫	
6	大竹小学校PTA会長	飯塚 正好	
7	新宮小学校校長	小澤 信三	
8	新宮小学校PTA会長	高橋 亨	
9	串挽小学校校長	田神 修一	
10	串挽小学校PTA会長	岡野 勝	
11	野友小学校校長	長谷川 馨	
12	野友小学校PTA会長	堀田 一	
13	当間小学校校長	高崎 敏雄	
14	当間小学校PTA会長	木内 秀樹	
15	銚田市教育委員会教育部長	根本 研司	
16	銚田市教育委員会教育総務課長	大場 渉	

事務局

No.	職 名	氏 名	備 考
1	新しい学校づくり推進室長	長峰 道男	
2	新しい学校づくり推進室長補佐	田中 義則	
3	新しい学校づくり推進室施設整備係長	大川 修	
4	新しい学校づくり推進室推進係長	菊地 優貴	
5	新しい学校づくり推進室主事	薄井 利昭	